

# 筋原地域ビジョン

令和3(2021)年3月

筋原自治区

(広島県三原市久井町筋原)



## 目 次

序章	計画策定にあたって	1
1	計画策定の目的	1
2	地域ビジョンの役割	1
3	地域ビジョン策定の取組	1
1章	地区の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	3
3	地区活動の状況	4
2章	地区の魅力・資源と問題点・課題	6
1	地区の魅力・資源	6
2	地区の問題点・課題	7
3章	地域ビジョン	8
1	地区の将来像	8
2	地区づくりの目標設定	8
3	地区づくりの体系	10
4	地区づくりの基本計画	11
5	計画の推進体制	17



## 序章 計画策定にあたって

### 1 計画策定の目的

苧原地区は、苧原川沿いに広がる美しい田園集落で、商業施設や医療機関まで近く、比較的利便性に恵まれた地区です。三原市の中山間地域において地区人口は少ないものの住民相互の絆は強く、行事・祭りは地区総出で行うとともに、農地の管理を地区全体で取り組んでいます。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区活動の担い手が不足してきているとともに活力が失われてきています。

こうした状況において、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、苧原自治区では、平成27(2015)年3月に策定した「苧原地区活性化計画」とその後の取組を踏まえて、新たに「苧原地域ビジョン」の策定に取り組みました。

### 2 地域ビジョンの役割

「苧原地域ビジョン」は、苧原自治区が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体、事業所などと地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、地区出身者、都市住民、大学生など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

### 3 地域ビジョン策定の取組

苧原自治区では、各種団体の代表者などで構成する「苧原地域ビジョン策定会議」を開催し、「苧原地域ビジョン」の策定に取り組みました。

計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、全住民を対象とした苧原地域ビジョン策定ワークショップ（意見交換会）を開催しました。

# 1章 地区の概要

## 1 位置

本地区は、三原市久井地域の北部に位置しています。

筋原地区中心部（筋原コミュニティホーム）から主要な場所まで車を利用するの所要時間は、久井支所まで約10分、三原市役所まで40分、スーパーや病院のある世羅町中心部までは約10分です。

また、山陽自動車道三原久井インターチェンジまで約15分、広島空港まで約30分です。

図 筋原地区の位置



## 2 人口・世帯数

### (1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳で見ると、令和2(2020)年で101人になっており、過去5年間で8人減少しています。

年齢3区分別人口をみると、令和2(2020)年で0～14歳4人、15～64歳49人、65歳以上48人で、高齢化率は約48%になっています。

年齢3区分別人口の推移をみると、過去5年間で0～14歳及び15～64歳は減少、65歳以上は増加しています。

表 人口の推移 (単位：人，%)

区 分		実 数			増減数	
		H22 (2010)年	H27 (2015)年	R 2 (2020)年	H27(2015)－ H22(2010)	R 2(2020)－ H27(2015)
実 数	0～14歳	11	6	4	△5	△2
	15～64歳	66	60	49	△6	△11
	65歳以上	53	43	48	△10	5
	合 計	130	109	101	△21	△8
割 合	0～14歳	8.5	5.5	4.0	－	－
	15～64歳	50.7	55.1	48.5	－	－
	65歳以上	40.8	39.4	47.5	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年3月末現在）。H22(2010)年人口は外国人登録人口を含みません。

### (2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を住民基本台帳で見ると、令和2(2020)年で52世帯になっており、過去10年間で微増となっています。

1世帯当たり世帯人員は令和2(2020)年で1.94人になっており、過去5年間で0.24人減少しています。

表 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減数	
	H22 (2010)年	H27 (2015)年	R 2 (2020)年	H27(2015)－ H22(2010)	R 2(2020)－ H27(2015)
世帯数（世帯）	49	50	52	1	2
世帯人員（人）	2.65	2.18	1.94	△0.47	△0.24

注：世帯数は、住民基本台帳（各年3月末現在）。H22(2010)年世帯数は外国人登録世帯数を含みません。

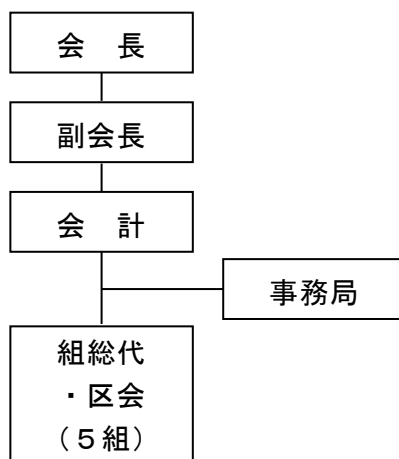
### 3 地区活動の状況

#### (1) 自治区などの団体

##### ア 荻原自治区

荻原自治区は5組で構成しており、組総代・区会を通じて情報伝達を行っています。また、各種事業の実施は地区全体で協力して取り組んでいます。

図 荻原自治区の組織



##### イ その他の団体

荻原自治区以外の主な団体とその活動状況は次のとおりです。

表 その他団体の活動状況

団体名	主な活動
あざみ会	・夏祭り，大運動会，大とんど等の運営
久井地区社会福祉協議会	・一人暮らし世帯へ弁当配布
自主防災会	・避難訓練等
地区消防団	・火災時，災害時の出動，春季火災予防，秋季火災予防，年末夜警，訓練，
高齢者サロン	・百歳体操，脳トレ
カレーの日運営	・土曜カレーの日（1か月に1回） ・地域支援員を中心にボランティアでカレー，飲み物等の提供
農事組合法人 あぞうばら	・集落農場型農業生産法人 ・米，野菜等の作物の生産，出荷



## (2) 主な地区行事

本地区の主な行事は、次のとおりです。

表 主な地区行事

月	行事・祭り	内 容
1月	大とんど	・住民，地区出身者参加
2月	区有林・神社整備	・草刈り，枝木伐採
3月	グラウンド・ゴルフ大会	・久井町全体
4月	避難訓練	・自主防災会
5月	ソフトボール大会	・久井町全体
6月	缶拾い	・久井町全体
	グラウンド・ゴルフ大会	・筋原地区
7月	祇園祭	・久井稲荷神社，高杉神社，八幡神社
8月	夏祭り	・2年に1回開催
9月	長寿祝賀会・缶拾い	・久井コミュニティセンター（久井地区）
10月	久井高原祭り	・久井町全体のイベント
11月	大運動会	・2年に1回開催
	秋祭り	・高杉神社，八幡神社（神楽等）

## (3) これまでの取組

筋原自治区では、「筋原地区活性化計画」に基づいて平成27(2015)～令和元(2019)年度の5年間に次のような事業に取り組みました。

表 これまでの取組（平成27～令和元年度）

区 分	内 容
1 多様な世代が暮らす地区づくり	・地区出身者との交流（広報誌あざみの送付，地区イベントへの参加の働きかけ） ・空き家調査，空き家所有者の意向調査の実施
2 高齢者が元気に暮らせる地区づくり	・高齢者見守りサポート活動 ・あざみサロン，いきいき百歳体操・おしゃべりの会（金曜日/週）の開催 ・あざみカレーの日の開催 ・長寿祝賀会の開催
3 地区の基幹産業である農林業の振興	・有害鳥獣対策の実施
4 地区資源を活かした観光・交流の推進	・グラウンド・ゴルフ大会，筋原レッツウォーキングの開催 ・青空市場の開催
5 全住民が支える地区活動の推進	・環境美化活動，区有林の下刈り ・祇園祭への参加，地元神社で奉納 ・夏祭り，秋祭り，筋原大運動会，大とんどの開催 ・歴史文化の継承（盆踊りの口説き，振り付けの継承，祇園祭の獅子舞，笠踊りの音頭取り，唄，踊りの継承，民話等を高齢者から聞き取り） ・広報誌「あざみ」の発行

### 3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

#### 1 地区の魅力・資源

蒔原地区の魅力・資源について、「蒔原地区活性化計画」の内容に蒔原地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）での意見を加えて整理すると、次のとおりです。

表 地区の魅力・資源

区分	地区の魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none"><li>・美しい田園景観, 四季の風景</li><li>・彼岸花ロードの美しい景色</li><li>・シダレザクラ, オガタマノキ</li><li>・ふくろうが毎年巣をかける家</li><li>・蒔原川</li><li>・水源が多い, 大草田市原川</li><li>・ホタルの飛翔場所</li><li>・ため池が多い（9か所）</li><li>・眺望の良い場所</li></ul>
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"><li>・蒔原の石畳</li><li>・八幡神社, 高杉神社</li><li>・伝統行事（夏祭り（盆踊り）, 祇園祭等）</li></ul>
農地・農業	<ul style="list-style-type: none"><li>・蒔原の農産物, 特産物</li><li>・農地を守る組織がある（農事組合法人あぞうばら）</li><li>・久井高原牧場（雲の上の牧場：牛, 牛乳）</li><li>・丸善製薬久井ファーム（冒険遊び場の会場）</li></ul>
人材・組織・地区活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・近所付き合いが良い（まとまりやすい）</li><li>・地区が狭く, 顔もわかり, 声もかけやすい</li><li>・元気な高齢者が多い</li><li>・高齢見守りサポート活動</li><li>・あざみサロン, いきいき百歳体操・おしゃべりの会（金曜日/週）, カレーの日等</li><li>・大とんど祭り（地区外からの来訪）</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・蒔原コミュニティホーム</li><li>・蒔原福宝グラウンド・ゴルフ場</li></ul>

## 2 地区の問題点・課題

荻原地区の問題点・課題について、「荻原地区活性化計画」の内容に荻原地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）での意見を加えて整理すると、次のとおりです。

表 地区の問題点・課題

区 分	地区の問題点・課題
地区全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区人口が100人を割る状況であり、何をするにも担い手不足である</li> </ul>
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし及び高齢者のみの世帯が増え、暮らしの不安がある</li> <li>・1人で動くことができない（同行支援が必要な）高齢者の増加</li> <li>・高齢者世帯で家、庭の管理が難しくなっている</li> <li>・自家用車が運転できなくなった時の生活（病院、買い物）が不安である</li> <li>・老々介護が不安である</li> <li>・草刈り作業への参加の負担が大きい</li> <li>・老人クラブがなくなり、集まる機会が減少した</li> </ul>
若者の定住 子ども・子育て	<p>&lt;若者定住&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業がないため、若者が定住しにくい</li> <li>・若い人の集まる場所がない</li> </ul> <p>&lt;子ども&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが少なく、子どもを通しての地区交流がなくなった</li> <li>・ブランコ、遊具が古くなっている</li> <li>・子どもの遊び場が少ない</li> <li>・孫が帰って来ても、遊ばせる場所がない</li> </ul>
農地管理・農業	<p>&lt;有害鳥獣&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有害鳥獣が増え、被害が増えている</li> </ul> <p>&lt;農業の担い手&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業後継者がいない</li> <li>・農事組合法人の担い手も高齢化し、今後の担い手の確保に不安がある（60歳代が一番若い）</li> </ul>
山林管理・林業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山林の管理ができない</li> </ul>
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路が狭く、歩道が未整備である</li> <li>・久井ふれあいバスが不便である</li> <li>・空き家が増加している</li> <li>・大雨の時の水害が心配である</li> <li>・コミュニティホームが自主避難場所だが、安全な避難場所といえない</li> </ul>
地区活動・近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員の負担が大きい</li> <li>・若者中心の行事がない</li> <li>・行事の参加者が減ってきている</li> <li>・祇園祭、盆踊りの後継者がいない</li> <li>・高齢化が進行し、組織運営に問題が生じている</li> </ul>

### 3章 地域ビジョン

#### 1 地区の将来像

本計画では、「筋原地区活性化計画」策定時に掲げた地区の将来像を踏襲し、次のとおりとします。

##### <地区の将来像>

緑豊かな環境の中で誰もが住みたくなる「筋原」

#### 2 地区づくりの目標設定

##### (1) 目標設定

地区の将来像の実現に向け、次のとおり目標を設定します。

##### ア 自治区加入率

現状値	めざす方向	目標値	備考
100% (令和2年度)	維持	100% (令和7年度)	・現状値は町内会・自治会調べ

##### イ 新規事業数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和2年度)	増加	2事業 (令和3～7年度)	

##### ウ 他団体との連携事業数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和2年度)	増加	10事業 (令和3～7年度)	

##### エ 地区への移住者数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和2年度)	移住促進	15人 (令和3～7年度)	・毎年1世帯、3人の移住

##### オ 地区出身者との交流者数

現状値	めざす方向	目標値	備考
9人 (令和元年度)	増加	20人 (令和3～7年度)	

## (2) 人口の将来見通し

平成27(2015)年から令和2(2020)年の人口(住民基本台帳)の推移が継続した場合の人口を推計すると、地域ビジョン策定年次の令和2(2020)年から10年後の令和12(2030)年には82人になり、令和2(2020)年と比較して19人減少するものと見込まれます。

年齢3区分別人口をみると、0～14歳及び15～64歳人口は減少、65歳以上人口は微増で、高齢化率は約60%になるほか、0～14歳人口がいなくなる可能性があります。

こうした状況に対して、総人口の減少はやむを得ないものの0～14歳人口が増加に転じることを目標として、本計画で掲げる「多様な世代が暮らす地区づくり」をはじめとする各種取組を推進します。その結果、毎年30歳代前半の夫婦(子ども1人)1組が、過去5年間の動向より増加するものとし、令和12(2030)年の総人口を約120人と設定します。

注：人口推計は、島根県中山間地域研究センターの人口予測プログラムを用いました。

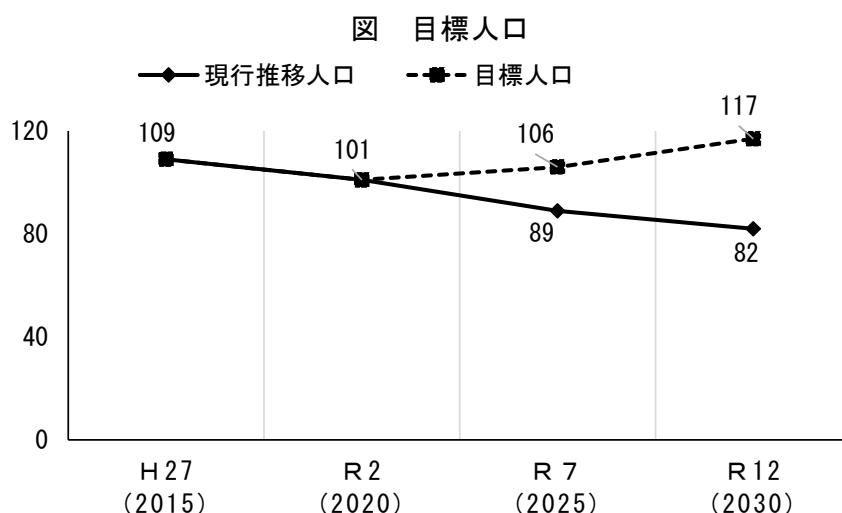


表 目標人口

区分	令和2(2020)年	令和7(2025)年	令和12(2030)年	令和12(2030)年 －令和2(2020)年
0～14歳	4	9	11	7
15～64歳	49	51	57	8
65歳以上	48	46	49	1
合計	101	106	117	16

注-1：過去5年間の推移と比較して、毎年30歳代前半の夫婦(子ども1人)1組が増加するものとした。

-2：出生率は、H27.4～R2.3までに出生した人口(0～4歳)をR2.3の20～39歳の女性人口で除した値で設定するが、荊原地区ではこの間の出生数が0のため、出生割合を設定できない。このため5年前の出生割合(男女合わせて0.16)を参考に男性0.10、女性0.10と設定。

-3：令和2(2020)年は3月31日現在の人口。

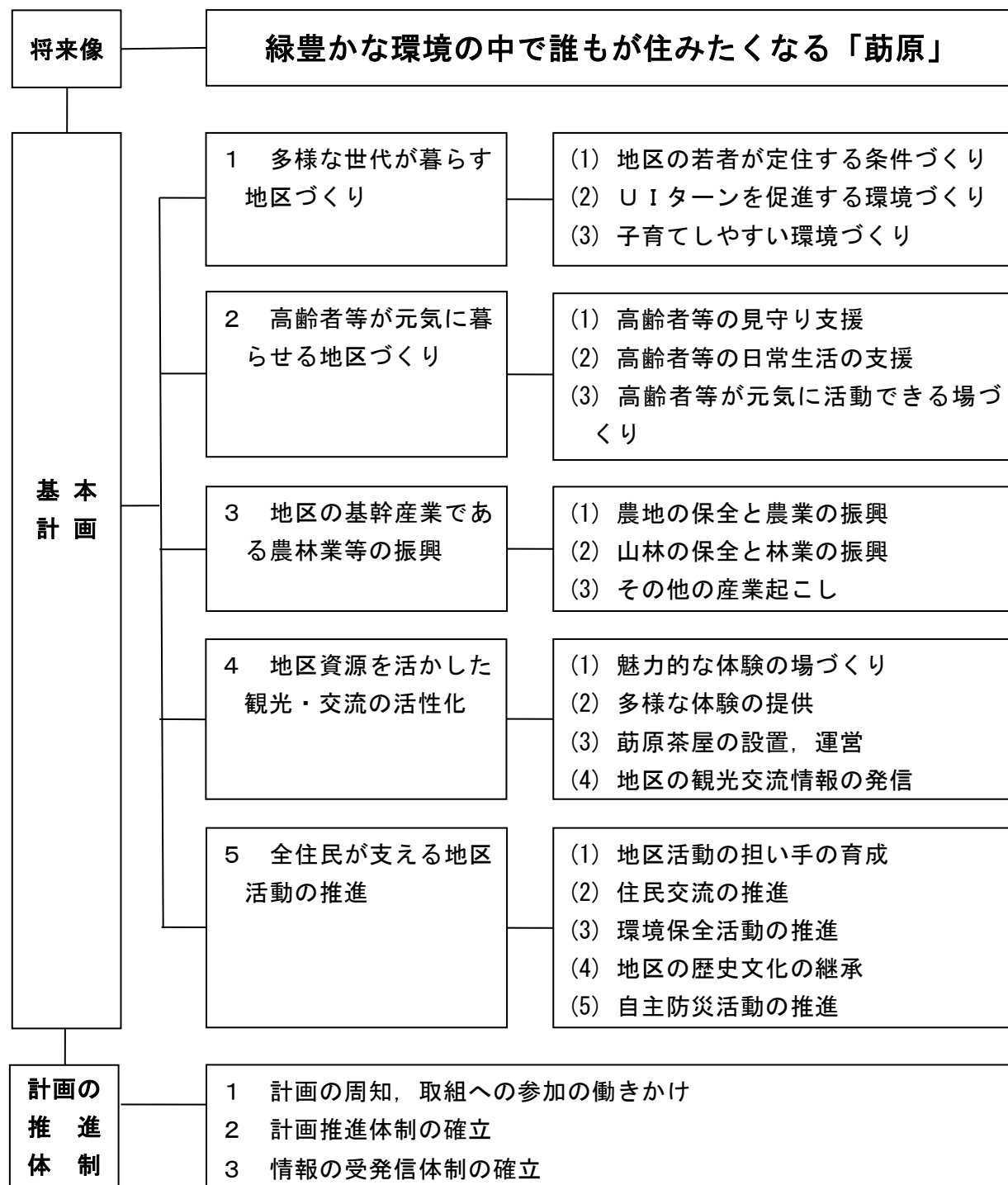
参考 現行推移の場合の将来人口

区分	令和2(2020)年	令和7(2025)年	令和12(2030)年	令和12(2030)年 －令和2(2020)年
0～14歳	4	2	0	△4
15～64歳	49	41	33	△16
65歳以上	48	46	49	1
合計	101	89	82	△19

### 3 地区づくりの体系

地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図 地区づくりの体系



## 4 地区づくりの基本計画

地区の将来像を踏まえて、地区づくりの基本計画として5つの柱と主な取り組みを掲げます。

なお、取組事項は、「筋原地区活性化計画」の内容を踏まえるとともに、筋原地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）などにおける意見のうち、筋原自治区をはじめとする各種団体及び住民が取組主体になる事項をとりまとめました。

### 1 多様な世代が暮らす地区づくり

#### (1) 地区の若者が定住する条件づくり

- ・ 地区内に若者の就労の場（農事組合法人あぞうばら等）の提供になどにより、地区で育った若者の定住の促進
- ・ 若者が交流できる場の確保
- ・ 若者が居住できる賃貸住宅の整備
- ・ 若者の婚活の支援
- ・ テレワークへの移行する状況の中で、若者の定住・移住を促進する対策の検討

#### (2) U I ターンを促進する環境づくり

##### ア 地区出身者との交流の推進

- ・ 地区出身者との交流の拡大（名簿の把握、地区情報の発信）
- ・ 地区出身者と定期的な交流を行うことによる地区への関心の醸成、行事への参加の促進（行事スタッフとしての参加や草刈等の応援）

##### イ U I ターンの促進

- ・ U I ターン希望者への地区の案内、住宅・仕事の紹介及びU I ターン者との交流会の開催
- ・ U I ターン者に対する生活支援ハンドブックの作成・配布（自治区活動、近所づきあい、ゴミ出し、行事等）
- ・ U I ターン者相互のネットワークづくり
- ・ U I ターン者が地区の生活に馴染み、安定した暮らしを送るための相談支援

##### ウ 空き家の活用

- ・ 空き家調査、空き家所有者の意向調査の継続実施
- ・ 空き家所有者に対する家の管理、家財の処分、空き家バンク登録などの支援
- ・ 空き家を活用する人への補助制度、不動産業者・建築業者等の紹介、家の掃除・改修などの支援
- ・ 空き家を活用して「おためし住宅」を整備し、短期滞在を通じて移住希望者に地区の魅力を体験してもらうことによる移住の促進

#### エ U I ターン情報の発信

- ・ 荻原のホームページ，フェイスブックなどで，地区の魅力，行事・イベント，住宅・仕事などの情報発信

#### (3) 子育てしやすい環境づくり

- ・ 地区の自然，歴史文化，産業体験などの提供による地区に愛着と誇りを持つ子どもの育成
- ・ 子どもと大人の交流（民話語り，昔遊び，民芸品づくり，餅つき等）の推進
- ・ 子ども冒険遊び場の整備（都市部ではできない体験の提供）
- ・ 「久井子ども情報局」と連携し，地区外の子どもを含めた幅広い交流の推進
- ・ 子どもの視点，子どもを主役とした行事の開催



## 2 高齢者等が元気に暮らせる地区づくり

### (1) 高齢者等の見守り支援

- ・ 高齢者のみの世帯などの見守りサポート体制の充実
  - ・ 近所の声かけ
  - ・ 民生委員児童委員・見守りサポーターによる訪問
  - ・ タブレットの活用，見守りカメラの設置
- ・ 緊急時に迅速な対応ができるように，高齢者の暮らしの状況がわかる安心カード（連絡先，血液型，通院先等を記載したカード）づくりの働きかけ
- ・ 見守りと併せて高齢者等の支援ニーズの把握
- ・ 関係団体と連携した高齢者等支援ネットワークづくり

### (2) 高齢者等の日常生活の支援

#### ア 外出の支援

- ・ 高齢者を地区住民がボランティアで送迎することの検討
- ・ 予約乗合タクシーの運行による高齢者等の外出利便性の向上

#### イ 買い物の支援

- ・ 移動販売車の地区内巡回運行の働きかけ
- ・ あざみサロン開催時などへの移動販売車巡回の働きかけ
- ・ 外出時に高齢者等に声をかけて注文を聞き，買い物して帰る御用聞きサービスの検討

#### ウ 困りごとの支援

- ・ ひとり暮らしのなどの高齢者のみの世帯に対して困りごとを支援するお助け隊の設置（相談窓口の設置，お助けスタッフの募集，確保（得意なことで支援））
- ・ 家，庭の掃除，ゴミ出しなどの支援

#### エ その他の日常生活の支援

- ・ 関係団体と連携してオレオレ詐欺，訪問販売などの被害を予防する講習会の開催
- ・ 関係団体と協力して，高齢者の運転マナー及び安全運転の指導講習会の開催
- ・ 自家用車の運転が危険な状態になっている人に，家族と連携して免許返納の働きかけ
- ・ 介護者のいる家族への支援

### (3) 高齢者等が元気に活動できる場づくり

#### ア 高齢者サロンの充実

- ・ あざみサロン，いきいき体操・おしゃべりの会の充実（男性の参加の促進）
- ・ 高齢者等の引きこもりの防止，外出するきっかけとするための食事会（カレーの日）の充実

#### イ 元気な高齢者の生きがい活動の確保

- ・ シルバー人材センターへの登録の働きかけなどによる高齢者の就業の場の確保
- ・ 野菜（果物）の栽培，野菜市などでの販売，組織化の支援などを通じて，元気な高齢者の活躍の場づくり
- ・ 高齢者の経験・知識を活用して，歴史文化，伝統行事の継承

### 3 地区の基幹産業である農林業等の振興

#### (1) 農地の保全と農業の振興

##### ア 有害鳥獣対策

- ・イノシシ対策チームの結成による地区を挙げての有害鳥獣対策の推進
- ・地区で連携して共同防護柵の設置，管理体制の充実
- ・イノシシの嫌がるものの研究など総合的な対策の検討
- ・イノシシ捕獲免許取得者を応援する体制づくり，技術を習得・継承する場づくり

##### イ 農地の保全と担い手の確保

- ・雑草防除対策として，水田の畦へのセンチピートグラスの植え付け
- ・遊休農地への菜の花の播種などによる保全・活用
- ・農事組合法人に対してトラクター，オペレーターの増員，新規就農希望者の受け入れなど活動の強化を働きかけるとともに，運営の継続に向けた地区を挙げての支援

##### ウ 農業の振興

- ・農事組合法人で生産しているコシヒカリ，カブなどの特産品化の推進，農事組合法人と連携した新規特産品づくり
- ・蒔原産大豆を使っての味噌（委託生産）の増産
- ・竹チップ堆肥を活用した水田の土づくり
- ・久井高原牧場の経営者と連携して，ローストビーフなどの特産品づくり
- ・JAへの出荷以外の多様な販売ルートの開拓
- ・農家で作っている余った野菜の販売農産物直売所の設置，運営

#### (2) 山林の保全と林業の振興

##### ア 山林の保全対策

- ・間伐材などの利用を推進するため，木材からペレットを製造し，燃料として使用することなどの検討

##### イ 林業の振興

- ・薪，炭製造と販売
- ・マツタケ山の再生（間伐，下刈り等）によるマツタケ狩り，すき焼きパーティーなどのイベント開催による都市住民との交流
- ・竹チップ堆肥の生産・活用の促進

#### (3) その他の産業起こし

- ・ドジョウ，ウナギの養殖
- ・遊休農地を活用した太陽光発電の検討

## 4 地区資源を活かした観光・交流の活性化

### (1) 景観保全，魅力的な体験の場づくり

- ・ 里山，集落などの美しい筋原の景観保全（彼岸花ロードの保全，筋原川沿いへの桜，柳の植栽等）
- ・ 遊休農地への菜の花の播種などによる美しい景観づくり
- ・ 彼岸花ロードと連絡する筋原河岸の散策路の整備
- ・ 里山整備とハイキングコースづくり
- ・ 来訪客が観賞しやすいようにしだれ桜一帯の環境整備
- ・ 筋原川源流の清掃美化，ホタルの養殖などによるホタルの里づくり
- ・ 大草田池などのため池の釣り場所としての環境整備
- ・ 筋原石畳一帯の環境整備

### (2) 多様な体験の提供

#### ア 多様な筋原体験の提供

##### <自然>

- ・ 四季の山並み，あざみ，しだれ桜，オガタマノキ，彼岸花ロード
- ・ 昆虫採集，ホタル観賞，ため池での釣り
- ・ 里山体験ハイキング

##### <地区行事・歴史文化>

- ・ 筋原石畳一帯の歴史文化体験
- ・ 大とんど祭り，祇園祭，夏祭り，秋祭り

##### <産業>

- ・ 農業体験（田植え，草刈り，稲刈り，芋掘り等）

#### イ 多様な体験プログラムづくりと来訪客の受け入れ

- ・ 年齢層（小中学生，ファミリー，若者グループ，熟年夫婦・グループ等）及び季節に合わせた各種体験メニューを組ませた体験プログラムの作成と体験客の受け入れ
- ・ 三原観光協会など連携した体験ツアー企画・実施

#### ウ 周辺地区と連携した周遊コースづくり

- ・ 久井地域全域を対象としたサイクリングロードの整備
- ・ 久井の岩海自然公園，宇根山天文台，吉田のギンモクセイなどを活用し，久井地域全体を楽しむ周遊コースづくり

### (3) 筋原茶屋の設置・運営

- ・ 地区の眺望が良好な場所にある古民家を活用した茶屋を整備し，地区住民，来訪客に対して休息，飲食，地産地消料理（地区の農産物・特産品，イノシシ肉等の活用）の提供

### (4) 地区の観光・交流情報の発信

- ・ インターネットを活用した筋原の魅力情報の発信体制づくり（ホームページ，フェイスブック，インスタグラム等）

## 5 全住民が支える地区活動の推進

### (1) 地区活動の担い手の育成

- ・若者が参加しやすく、主役になれる場づくりなどによる若い担い手の育成
- ・住民が可能な範囲で地区活動に参加し、役割分担を効果的に行いながら活動する体制づくりと地区住民の結びつきの強化
- ・苧原の将来に対する危機感の共有、地区一丸となった今後の地区運営方策の検討

### (2) 住民交流の推進

- ・地区住民誰もが楽しめる行事の企画・開催
- ・子ども（就学前，小中学生等）が主役のイベント（例：泥んこバレー）の開催
- ・地区行事の維持に向けた取組の検討
  - ・地区住民以外の支援スタッフの確保（地区出身者，大学生等）
  - ・地区行事の簡素化の検討
- ・祇園祭の踊り子の確保（地区出身者の子ども，孫の参加等）

### (3) 環境保全活動の推進

- ・高齢化が進行する中での草刈りなどの環境保全活動体制の検討
- ・農事組合法人による草刈などの環境保全の検討
- ・新たな環境保全活動の担い手の確保（地区出身者，大学生への協力，企業の社会貢献活動への働きかけ）
- ・ヤギによる除草の検討

### (4) 地区の歴史文化の継承

#### ア 伝統行事の継承

- ・祇園祭で奉納している「獅子」と「踊り」の継承
- ・八幡神社，高杉神社の神楽殿を利用した神楽（秋祭り）奉納の継続
- ・苧原特有の盆踊りの継承

#### イ 苧原の歴史文化の継承

- ・遺跡などの現地調査
- ・高齢者から伝統行事，風習，昔話などの聞き取り
- ・各家の古い写真の収集，編集，古写真展の開催
- ・苧原の歴史文化の記録編集，記録編集に係るIT企業などの支援の働きかけ

### (5) 自主防災活動の推進

- ・地区全員の自主避難場所の確保
- ・専門的な防災知識を持つ人材の育成（防災士取得支援，各種講演会への派遣等）
- ・災害時における情報の収集・伝達，警戒避難体制の充実（特に，要支援者避難支援体制の確立）
- ・防災備品・機材の計画的な備蓄
- ・防災及び災害時避難意識の向上と防災・避難訓練参加率の向上
- ・家庭の災害時における準備に係る意識啓発（避難袋の準備等）

## 5 計画の推進体制

### (1) 計画の周知，取組への参加の働きかけ

各種団体の会合などで「苧原地域ビジョン」の周知を行い，住民一人ひとりの地区づくりへの当事者意識を醸成するとともに，地区づくり活動への参加を働きかけます。

### (2) 計画推進体制の確立

「苧原地域ビジョン」を実行する体制を次のように確立し，各種事業の実施に取り組みます。

#### ア 幅広い参加と持続的に活動できる体制の確立

- ・「苧原地域ビジョン」の実行にあたっては，苧原自治区へ幅広い人材の参加を働きかけるとともに，地区内の団体との連携を強化し，地区全体で各種事業を推進します。
- ・苧原自治区の活動へ女性，若者の参加を促進するため，同世代の横の結びつき，若い世代の多い消防団，保護者会及びPTAなどを活用した参加の働きかけ，会議の開催曜日・時刻への配慮などによる参加しやすい環境づくりに取り組みます。
- ・地区の人材，事業所などの得意分野を整理したリストを作成し，地区づくりに適材適所で協力してもらう体制を確立します。
- ・講習会・研修会などへの参加，講演会の開催，先進地視察の実施などによる人材育成に取り組みます。

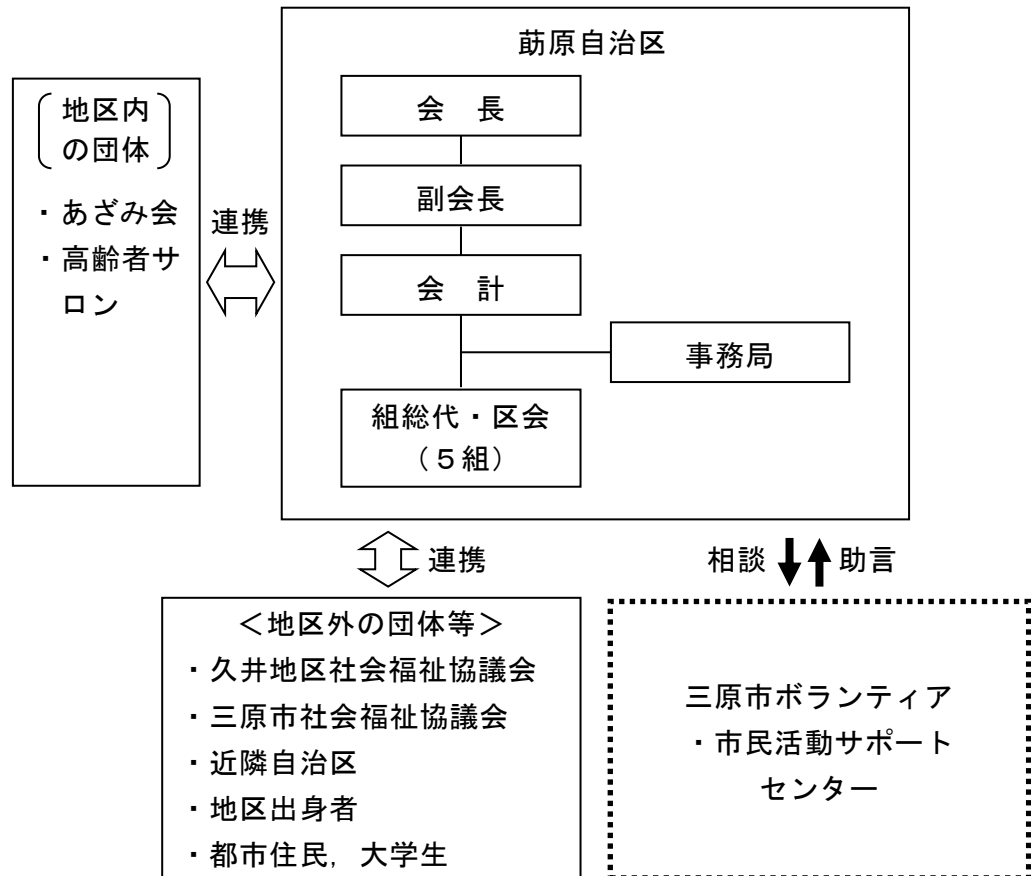
#### イ 地区外の個人，団体との連携の強化

- ・三原市ボランティア・市民活動サポートセンターと連携し，地区づくりへの助言，専門的人材の紹介・派遣などの支援を受け，地区づくり活動の活性化を図ります。
- ・三原市中山間地域の共通課題（高齢者の生活支援，UIターン促進，観光・交流，情報発信等）へ効果的に取り組むため，他地区との連携を強化します。
- ・地区外の団体との連携を強化して地区づくりへの応援を受けるとともに，地区出身者，都市住民，大学生などに対して，地区行事への参加や地区づくりへの応援を働きかけます。

#### ウ 活動財源の確保

- ・活動資金を確保するため，廃品回収などによる財源の確保，収益事業の積極的な導入及び住民負担の増額を検討するほか，国，県，市などの支援制度の活用を図ります。
- ・収益事業の受け皿となるNPO法人，住民出資の地区づくり会社などの設立に取り組みます。

図 筋原地域ビジョンの実行体制



### (3) 情報の受発信体制の確立

#### ア 地区内への情報の受発信

- 地区情報が住民一人ひとりに周知徹底できるように、回覧板を通じて情報周知の徹底、地区便りの発行、ケーブルテレビの告知放送の活用に取り組みます。また、高齢者が読みやすい回覧文書の作成に取り組みます。
- 若者世帯に対しては、筋原地区のホームページ、フェイスブック、SNSを活用した情報の受発信に取り組みます。

#### イ 地区外への情報の受発信

- 筋原地区のホームページ、フェイスブックを開設し、地区出身者、都市住民、大学生などに対して地区の魅力、年間行事・祭りカレンダー及び空き家活用・移住情報などの発信に取り組みます。
- 各種団体、個人のホームページ、フェイスブック、SNSなどを通じて、地区外の知人・友人などへ地区イベントなどの情報発信を働きかけます。

#### ウ 広報誌「あざみ」の発行

- ・地区住民及び地区出身者に親しまれている広報誌「あざみ」の発行を今後も継続できるように取り組みます。
- ・外部から広報誌編集の助言を受けるなど、スタッフの負担を軽減するように取り組みます。

#### エ 人材の確保・育成

- ・蒔原地区のホームページ、フェイスブックなどを管理、活用できる人材を確保・育成し、タイムリーな情報の受発信体制を確立します。